



祐介の目

No.125

大田祐介 (福山市議会議員)

火事に遭遇

大阪北新地のビル放火事件、容疑者死亡により迷宮入りとなった。何とも後味の悪い事件だが、私が36年前に遭遇した火事と共通点がある。

高校卒業を目前とした新春、私は愛車(ホンダCB50S)を行きつけのバイク屋に預けて放課後毎日のように寄り、自然と常連さんとは顔なじみになっていった。中でも当時最新鋭のTZR250に乗るAさんに対してはうらやましい気持ちで一杯だった。雇われ店長のZさんは高校生が店に入り浸っていても気にしなかったし、私をバイク整備のアシスタントにしていた。

店はうなぎの寝床の様な細長い構造で、寒いので石油ストーブを焚いて整備をしていた。AさんのTZRのガソリンタンクを取り外した際に漏れたガソリンに引火!Zさんは店の表へ逃げたが、Aさんは店の奥に逃げた。店の奥はトイレと流しで行き止まりと

んが「大田君、ごめんよ!ごめんよ!」と泣きながら絞り出した声は忘れられない。

十数年後、私は職場の防火管理者に選任され、消防署で講習を受けた。そこであのバイク屋火災が事例として提示されたのだ。そして衝撃の事実!Aさんが破ろうとした格子窓の下には地面すれすれの隙間があり、そこを蹴破れば脱出できたかもしれないという事。建物はプレハブ造りで古く、壁の下部が腐食して穴が開いていた。教訓としては、火災の際は伏せてなるべく地表の空気を吸うこと、最後まであきらめず脱出口を探すこと、の2点だった。

その後、私の職場の病院に搬入される重度火傷の患者を多数見たが正視できない残酷な光景だった。病院で患者に吸わせる酸素は可燃性ガスだし足の悪い患者は自力で避難できないので、防火管理者として避難訓練や防火設備点検は真剣に実施した。皆様、火の用心くれぐれも念入りに。

なり、窓には格子がはまっていった。Aさんは必死で格子窓を破ろうとしたが煙にまかれ亡くなった。幸い私は不在だったが、預けていた愛車は焼けてしまい、火災現場にかけつけた際のZさ